

<お知らせ>

『メディカルぽっぽ』駅広報ラック配置のお知らせ

今年3月より、当院の広報活動の一環として、当誌『メディカルぽっぽ』をJR西日本の以下3駅内広報ラックに配置いたしております。より多くの方にお気軽にお手にとってご覧いただけたら幸いです。

今後ともさらに愛され親しまれる情報誌を目指して、充実した誌面づくりに努めて参りますので、よろしくお願いいたします。

・設置駅／JR大阪駅・鶴橋駅・天王寺駅

JR大阪駅



JR大阪駅1階
中央改札口付近

JR鶴橋駅



JR大阪駅橋上
改札口付近

JR天王寺駅



JR天王寺駅中央改札口付近

※予定配布冊数が終了した場合はご容赦ください。

<医療機関のみなさまへ>

第14回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会 開催延期のお知らせ

当誌前号でも2月26日(土)の開催をお知らせしておりました「第14回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会」ですが、コロナ第6波の状況を鑑み、誠に残念ではございますが下記日程に延長させていただく判断をいたしました。準備を進めてくださっていた関係各位には、ご心配、ご迷惑をおかけして誠に申し訳ございません。

現在、あらためまして延期開催に向け準備を進めております。今後もホームページ等で情報発信してまいりますので、なにとぞよろしくご高配のほどお願い申し上げます。

会期 ~~2022年2月26日(土)~~ → 2022年9月10日(土) 予定

会場 大阪国際交流センター

学術集会会長 西日本旅客鉄道株式会社 大阪鉄道病院院長 上田 祐二

※詳細につきましては、大阪鉄道病院ホームページ、お知らせ覧をご確認ください。

“私達は人間性を尊重し、謙虚で誠実な医療を提供します”

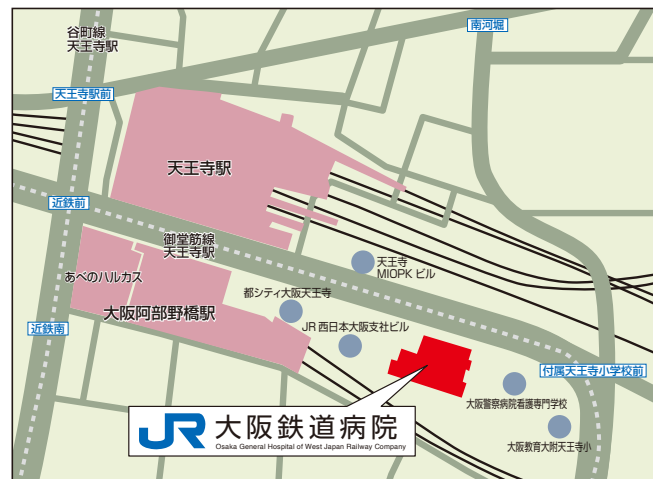
【基本方針】

安全で良質な医療を実践し、信頼される病院を目指します。
多機能型急性期病院としてチーム医療を推進し、継続的な医療を提供します。
地域に根ざした病院としての役割を認識し、住民の皆さんの健康増進に努めます。
地域医療機関との連携を重視し、きめ細かな医療に努めます。
専門性を追求し、医療レベルの向上と人材の育成に努めます。

JR 大阪鉄道病院
Osaka General Hospital of West Japan Railway Company

〒545-0053 大阪市阿倍野区松崎町1丁目2-22
TEL.06-6628-2221(代表) FAX.06-6628-2287(代表)
地域医療連携室 FAX.06-6628-4707
ホームページ <http://www.jrosakahosp.jp>

受付時間／午前8時30分～午前11時00分 診療開始／午前9時00分～
休診日／土日祝・年末年始(12月30日～1月3日)



メディカル よりよい医療の始発駅

ぽっぽ vol.12
2022.4

診療科 UPDATE

放射線科・放射線治療科

放射線科 部長 加藤 武晴

放射線治療科 部長 道本 幸一

看護部の今

おくすり基礎講座

リハビリコラム

Q&A「防災センター」

ぽっぽニュース



JR 大阪鉄道病院
Osaka General Hospital of West Japan Railway Company

放射線科・放射線治療科

放射線部門は、さまざまな画像診断装置から得た画像情報について診断を行う「放射線科」と、放射線を用いてがん治療を行う「放射線治療科」に分かれています。当院では高度な専門スキルを有するドクターとスタッフの緊密な連携のもと、安心安全な医療体制を確立しています。



ドクターインタビュー

部長 **加藤 武晴**

チーム医療の的確な遂行と
正確な画像診断であらゆる
診療科の治療に貢献。



画像診断センタースタッフとともに

放射線科医のやりがいと誇りを胸に

放射線科医師の主な業務は画像診断、すなわち撮像された画像を確認し、異常の有無や、異常があればどんな疾患の可能性が考えられるかを評価する読影業務です。

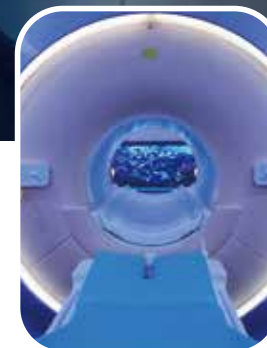
画像診断は、患者さんの症状や血液データなどの「状況証拠」をもとに、撮像された画像の中から「物的証拠」を探し出す作業です。それはとても地味な作業ではありますが、治療方針に影響することも多く、緊張感をもって取り組んでいます。画像の中から症状の原因となる疾患が見つかり、治療につながった時は充実感を覚えます。

また、現代の医療では、どんな診療科であれ画像を全く撮らずに手術することはありません。その意味で、さまざまな臓器や疾患の治療に関わる診療科であることは、画像診断医としてとてもやりがいを感じています。普段は患者さんの前に出ることも少なく、決して目立つ存在ではありませんが、日常診療を陰で支える役割を果たしていると自負しています。

スムーズな検査につながるスタッフの一体感

放射線科のフロアには、放射線科の医師以外にも診療放射線技師や看護師、医療事務員など多くの職員が働いています。それぞれが自覚と責任を持って診療を行っています。チームとして対応することも多く、相互の協力や意思疎通が必要不可欠です。

フロアには落ち着いて読影ができる「読影室」というモニターが並んだ別室がありますが、診断担当の3人の常勤医師のうち2名は必ず、検査室に近い読影端末に常駐しています。こうした態勢により、たとえば指示出しや報告受け、相談など、技師や看護師、事務員との円滑かつ迅速なコミュニケーションが取れるようにしています。この風通しのよい職場環境が当院放射線科のひとつの特徴といえます。



2019年にリニューアルしたMRI(1.5T Ingenia / フィリップス社製)

患者さんが横になる筒状のスペースが広くなり、圧迫感の軽減を実現しました。撮像中にはリラックス効果のある映像や音楽が視聴可能で、検査室の照明にも工夫が凝らされているなど、検査時のストレスを低減する工夫が多彩に搭載されています。

正確な画像診断を支える充実の機器

画像診断においては、まずはノイズの少ないきれいな画像を撮像することが重要です。当院では、2019年4月にフィリップス社製の最新のMRI(1.5T Ingenia)を導入いたしました。導入からほぼ3年が経過しましたが、順調に稼働しており、以前に比べて短時間で高画質な撮像が可能となりました。

このほか最新型の320列マルチディテクターCTやラジオアイソトープを用いた核医学検査、マンモグラフィ検査など、さまざまな画像検査を行っています。IVR(画像下治療)も行っており、CT搭載のハイブリット型装置を駆使して治療を行っています。

日々切磋琢磨し地域貢献を目指す

大阪鉄道病院には、急性期医療から回復期医療までを担う地域中核病院としての役割があります。緩和ケア病棟も2017年に開設され、終末期のケアにも力を入れています。当院の放射線科には現在3名の放射線診断専門医が在籍しており、地域医療連携室を通して、近隣の多くのクリニックや医院、診療所から、多くの画像検査(CT検査・MRI検査・RI検査)の依頼があります。3名のうち2名が検診マンモグラフィ認定医、1名がIVR(画像下治療)専門医の資格も有し、それぞれのご要望にお応えしています。これからも画像診断のプロとしての自覚のもと、地域医療を画像検査という形で支え、貢献すべく、質の高い画像を提供していきたいと考えています。どうぞ安心しておまかせください。

放射線治療科

がんの 3 大治療法のひとつ、
放射線治療を安全確実に実践。

ドクターインタビュー

部長 道本 幸一

一人一人の患者さんに 寄り添う治療を

放射線治療は、手術、化学療法と並ぶがん治療の 3 本柱のひとつです。当院では、高エネルギー X 線を発生させる「リニアック」という装置を用い、根治から緩和まで、さまざまな病態に応じて放射線治療を行なっています。

どのように放射線治療を行うかの判断は専門的知識が必要です。当科では、放射線治療専門医が院外からの相談に対応するとともに、院内の他診療科とも連携し、患者さんの病状に合った治療を行っています。

患者さんご自身が納得し、安心して治療を受けていただけるように、まず治療に関して丁寧に説明し、ご相談にお答えしています。また治療中、治療後も定期的な診察を行い、副作用の早期発見と重症化の予防に努めています。

治療精度を高める最新の 装置を完備

ご存知のとおり、IT 技術の進展とともに放射線機器の発達も著しく、より強い放射線を正確により小さく当てることで、抗腫瘍効果が高く副作用が小さい治療が可能になってきました。

当科では、3 次元放射線治療を用いた通常照射に加え、主に前立腺がんを対象とした強度変調放射線治療 (IMRT) を行っています。多くの症例において照射前に画像誘導を行い、治療寝台 (ロボットカウチ) で照射位置をミリ単位で微調整することで照射精度を上げています。この画像誘導放射線治療により、照射範囲を可能な限り小さくして副作用を低減した治療を目指しています。

原発部位別の治療実績としては、乳がん、肺がん、前立腺がんの症例数が多く、次いで消化器系や造血リンパ系など多様な疾患への治療も行っています。



優秀な専門家たちによる 連携

当院の大きな特徴として、専門分野に精通したスタッフによるチーム医療の充実があげられます。専門職の一人、医学物理士は、物理学の科学的知識を医療の分野に応用する専門家として、治療計画を検証し、安全性を担保する役割を果たしています。この規模の病院に医学物理士が常駐しているのは珍しく、放射線医学を物理的・技術的見地からサポートしてくれるたいへん心強い存在です。加えてがん放射線療法看護認定看護師の活躍も、当院に欠かせません。初診時から同席し、治療内容はもちろん患者さんやご家族の状況やお気持ちにも心を配り、医師やスタッフとの間に立ってきめ細やかにフォローしてくれます。

今後もスタッフが一人となり、安全で的確な治療はもちろん、あらゆる意味で患者さんにやさしい治療を実現すべく努めてまいります。

< 当院の放射線治療 >

3 次元放射線治療

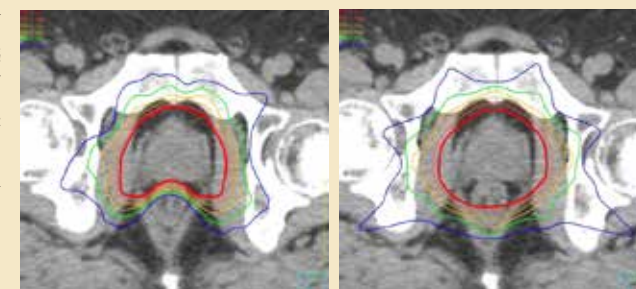
最新の高エネルギー X 線放射線治療装置 (リニアック) を用い、腫瘍の形に合わせて、色々な方向から放射線を照射する治療。さらに放射線を照射する位置の精度を上げるために、放射線治療装置に連動した X 線撮影装置や CT 撮影装置を使い位置の“ずれ”を補正することで、体の中の病巣に対して極めて正確 (ミリ単位) に放射線を照射することが可能です。その他、肺がんのように呼吸で移動する腫瘍の場合は、呼吸の状態を含めた 4 次元 CT で腫瘍の移動範囲を評価し、呼吸による“ずれ”を小さくする工夫をしています。



リニアック

強度変調放射線治療 (IMRT: Intensity Modulated Radiotherapy)

放射線の強さを複雑に変化させ、腫瘍の形状に合わせて照射を行う最新の治療技術です。周囲の正常組織への放射線を減らして副作用を低減しつつ効果的な照射が可能です。当院の強度変調放射線治療は、VMAT (Volumetric Modulated Arc Therapy) と呼ばれる強度変調回転照射で行っています。VMAT は IMRT の進化した治療方法で、照射時間が 2 ～ 3 分と短時間です。当院では主に前立腺がんに対して行っており、手術と同等の治療効果があると考えられています。



強度変調放射線治療
前立腺がんに対する強度変調放射線治療 (IMRT)

従来の治療

定位放射線治療

小さな腫瘍に対して、多方向から大線量の放射線を集中して当てる治療法。いわゆる“ピンポイント照射”です。当院では主に肺の腫瘍に行っています。原発性肺がんの場合は、転移のない、大きさが概ね 3 ～ 4 cm 以下で、肺の末梢に腫瘍が存在する場合が適応となります。治療は連日 4 日間、1 日 1 回で終了し、外来通院が可能です。効果は手術に匹敵すると考えられ、副作用が少ないのが特徴です。



肺がんに対する定位放射線治療 (ピンポイント照射)

< スタッフ紹介 >

安全な放射線治療のため
装置の精度管理に努めています。

治療専門医学物理士

久持 真弥

高精度な放射線治療を行うには、治療装置も高精度に保たなくては、正確な治療が行えません。そのため、日々、治療装置の状態が変化していないかを確認するために、様々な測定を行っています。放射線を用いた治療計画の作成は複雑な手順を伴うため、ヒューマンエラーを防止することが重要です。放射線治療医が立案した治療計画を医学物理士がチェックすることにより重大な医療事故を防いでいます。また計画通りに治療できるか確認するため、患者さんに放射線を照射する前に線量測定を通して治療の安全を担保しています。



放射線治療への不安をやわらげ、
患者さんに並走します。

がん放射線療法看護認定看護師

有菌 恵子

放射線治療は、決められた治療回数を予定通り終了することが大切です。がん放射線療法看護認定看護師として、日々患者さんに寄り添いながら、患者さんの持っている力を引きだし、一緒に治療完遂を目指していきたいと思っています。そのためにも患者さんとのコミュニケーションを大切に、毎日表情や副作用の観察を行い、必要な支援を行っています。さらに、医師や診療放射線技師と連携をとりながら、安心安全に、なおかつ患者さんの苦痛を可能な限り軽減して治療を受けていただけるようチームで支援しています。



入院時支援看護師の活動

地域医療連携室看護師 麻 美衣

当院の入退院サポートセンターでは、入院を予定している患者さんが安心して入院生活を送り、早期に住み慣れた地域で日常生活を継続できるように支援しています。今回は入院時支援についてお話をさせていただきます。

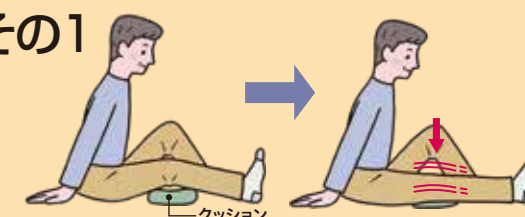
入院時の支援を担当する看護師は6名在籍しており、入院前に患者さんの生活環境や思いを確認し、病棟看護師、退院支援看護師等と連携を図っています。私たち入院時支援看護師は、入院時支援で、初めてお会いする患者さんとの関係性を構築しなければなりません。患者さんの生活環境や思いを確認するには、事前の情報収集や円滑なコミュニケーションが重要となります。患者さんにはさまざまな思いがあり、時にはご自身の辛い気持ちを教えてください方もおられます。私が担当させていただいたある患者さんは、病状の進行、呼吸症状の悪化により入院を控えておられ、入院時支援の際には日常生活動作で呼吸が辛く、呼吸に負担のかかる入浴などの清潔行為は命がけのような状況であると話してくださいました。私は、生活環境や介護サービスの情報だけでなく、そうした患者さんの思いも病棟看護師、退院支援看護師へ伝達しました。特にその患者さんの思いに着目した退院支援看護師は、入院後早期に患者さんのところへ伺い、退院時には地域の在宅支援事業者と連携を図り、自宅での生活環境を整えて退院していただくことができました。

私たち入院時支援看護師は、患者さんに直接ケアを行うことはありません。患者さんを取り巻く環境が移りゆく中で、患者さんの入院後に必要な事柄や今の思いを受け止めて、次に繋ぐことでケアを行っています。これからも、患者さんの思いを大切に繋ぎ、安心してご入院いただけるよう努めていきたいと思ひます。



変形性膝関節症 その4 自宅でできる運動療法 膝関節を支える筋肉を鍛えましょう

その1



クッションを膝の下に置いて潰すように押し付け、戻します。
※反対側の膝は立てて行います。

その3



横向きに寝て、上の足を真上に持ち上げ、戻します。
※下の脚は少し曲げてバランスをとります。

その2



仰向けに寝て、膝を90度程度に曲げて立て、膝、お尻、胸が一直線になるように持ち上げて、戻します。

- いずれも1セット 15~20回をめやすに、2~3セット行いましょう。
- 痛みや疲労感をおぼえた場合は、すぐに中止してください。

変形性膝関節症になると、ももの筋肉がおちて膝関節への負担が増加してしまう傾向があります。痛みや変形性膝関節症そのものの予防のためにも、膝関節を支える筋肉を鍛えることはとても重要です。

※当院では外来リハビリテーションは受け付けておりません。

おくすり基礎講座

薬剤部

lesson3

副作用と服用方法

薬剤部 梅谷 亮介

ご存知のように、くすりの成分は、必要なところで働くだけでなく、他のところに望ましくない症状を引き起こすことがあります。目的を果たす「主作用」以外の好ましくない作用を「副作用」と呼びます。

「主作用」＝病気や症状に期待できる効果

「副作用」＝主作用以外の効果

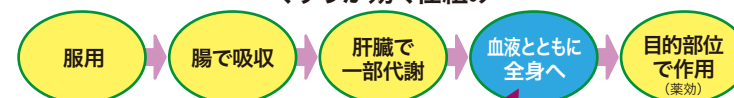
風邪をひいて薬を飲みました



＜副作用を避けるために注意したいこと＞

ご自身の体質（アレルギーなど）や体調をしっかり医師・薬剤師に伝えることに加え、くすりの用法・用量を守ることが必要です。くすりによって異なる用法・用量は、「くすりが効く仕組み」と深く関わっています。

くすりが効く仕組み



このとき血液中に溶けているくすりの濃度を「血中濃度」といいます。

くすりの用法・用量は、このくすりの血中濃度を一定に保ち、主作用を高め、副作用のリスクを最小限にするように配慮されています。このため用法・用量を守らないと、予期しない副作用が現れることがあります。だから決められた用法・用量を守ることが大事なのです。

副作用は使う人によって主作用になることもあります。

例) ジフェンヒドラミン
多くの風邪薬に配合される成分。鼻水などの症状を抑える作用がありますが、眠気を引き起こします。同じ成分を使用した市販品の眠剤は、この眠気の副作用を主作用としています。

- ・服用時間＝いつ飲むか
- ・服用量＝1回にどれだけ飲むか
- ・服用期間＝薬を正しく効かせるための期間、医師の指示通り服用する
- ・飲み合わせ＝一緒に飲めない薬や食べ物・飲み物がある

副作用を最小限にとどめるためにも、くすりは正しく飲みましょう。



素朴な疑問にお答えします

よくある



Q & A

患者さんやそのご家族からよくご質問いただくことをピックアップしてご回答致します。

Q. 診療予約の変更をしたいのですが。

A. やむを得ず予約変更をされる場合は、平日の14時から16時30分の間にお電話の上、その旨をお知らせくださいますようお願いいたします。受診科にお繋ぎさせていただきます。

Q. 病院で落とし物をしてしまったようなのですが。

A. 院内での落とし物は、最終的に防災センターに届くようになっています。遺失物にもよりますが、お預かり後、長期間にわたり登録保管しておりますので、お心当たりのある場合はご遠慮なくお尋ねください。

Q. 駐車場の利用時間について教えてください。

A. 駐車場の出入り口の扉はジャバラ型で手動で開閉でき、基本的には24時間で利用可能です。また、お帰り際には駐車券をご提示いただくと、3分の1の割引をいたします。

このほか気になることやご質問がございましたら、気軽にお声がけください。

防災センター

